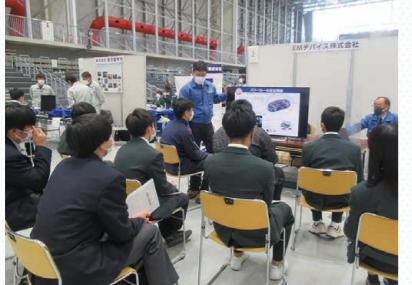




フレーフレー！高校生！

# NEWS BOX

がんばろう！ものづくりの力を応援します！



各企業が熱い入った説明を行った（仙南地域）



製品を手に取って説明を聞く高校生たち（仙台地域）

宮城県では、地元企業の魅力を高校生に伝える取組を行っており、11月1日には「仙台地域ミニ企業図鑑～地域産業説明会」（宮城県仙台地方振興事務所主催）が、8日には「仙南地域ものづくり企業説明会」（宮城県大河原地方振興事務所主催）が開催された。1日は仙台地域の6校から約440人、8日は仙南地域の10校から約470人の高校生が参加した。

仙台地域では37社が、仙南地域では39社が参加。若手社員や採用担当者が仕事をの内容、やりがいなどを説明した。また、自社製品を

高校生が触れられるようにするなど、様々な工夫を凝らしながら企業PRに努めた。

参加した高校生からは、「勤務体系や福利厚生など、それぞれの会社の特長を知ることができた」「興味深い話もたくさん教えていただき、働くことの楽しさ、やりがいをあらためて勉強できた」「会社の歴史や、働くまでの魅力、楽しきり立っていく」などの感想が寄せられた。

## 仙台地域と仙南地域で 高校生向けの説明会を開催

## 地元企業が魅力を発信



10月24日、「第60回技能五輪全国大会」「第42回全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）」に出場する宮城県選手団の結団式が、宮城県行政庁舎1階ロビーで行われた。技能五輪選手を代表して金野太誓さん（宮城県工業高等学園）、アビリンピック選手を代表して千葉結翔さん（宮城県立支援学校小牛田高等学園）がそれぞれ決意の言葉を述べ、大会に向けて士気を高めた。



## 第4回みやぎ学生自動車整備 技能コンクール

自動車整備士を目指す学生が技術を競う「みやぎ学生自動車整備技能コンクール」が11月20日、仙台高等専門校で行われた。学生の技術習得意欲と技能の向上を目的に、今回で4回目の実施。各校からの応援のほか、小学生や自動車業界関係者など約100人以上を超えるギャラリーを前に、県立高等専門校の1年生9人が「エンジン整備」「シャシ整備」「定期点検作業」の3種目で、時間内での正確性や安全性を競い合った。また、コンクール初のテ



自動車整備技能コンクールの様子

モンストレーション演技として宮城スバル自動車株式会社の整備士がサスペンション脱着表演を披露した。

## 宮城新卒者等人材確保推進本部からのメッセージ

新型コロナウイルスの影響による企業の事業活動縮小が懸念される中、新規学校卒業者等の皆さまが安定した就職先を確保し、充実した職業生活を送ることができるよう、企業との懸け橋となる各種就職支援および職場定着支援を「就職・採用応援プラン」により推進します。

詳しくは、[宮城労働局ホームページ](#)をご覧ください



Portreport  
刀鍛冶の

## 横顔



当代9代目 法華三郎信房（本名 高橋大喜）  
Saburo Nobuyusa Horikoshi

法華三郎日本刀鍛錬所

自分の心にうそはつけない、  
妥協なく日本刀づくりに打ち込む

「俺が作った刀がどうなかなんて大概分かんな  
いっしゃ。でも、自分の心にうそはつけねえのさ」。  
自らが納得のいくものができるまで何度も作り直  
す。「刀の収まらない鞘なんかうちにいっぱいある  
よ」。自分の打ち上げた刀の出来栄え、それを最も理  
解する者は自分だという自負、自覚が妥協のない日本  
刀づくりに直結している。刀鍛冶をなりわいとする家  
に生まれ、江戸期より続く法華三郎の名を引き継いだ。  
大和国、現在の奈良県で鎌倉末期に完成し、伊達政宗  
公が復興させた製法「大和伝」を継承する。大和伝は  
雄大と評される中反りとしつかりした特徴  
だ。日本刀は鉄を幾度となくたいて作り上げていく  
が、その時に現れる模様を地肌という。木を中心から  
縦断したとき面に現れる、樹心に平行して真っ直ぐ出  
る木目を柾目というが、日本刀にも柾目肌と呼ばれる  
地肌がある。柾目肌をつくるためには気が遠くなるほ  
どの時間と繊細さを求められるが「柾目は得意なんだ」  
とさらりと口にする。決して大きくなれない両の手には、  
何でも包み込んでしまうような安心感がある。柔らか  
い笑みが絶えない。